

平成30年度 プロジェクト研究所研究実績報告書

(様式 2-1)

平成31年5月27日

代表者 上垣内 伸子

研究所の名称	幼児教育研究所
設置年限	平成30年4月1日～平成31年3月31日
1. 研究の取組状況	
<p>保育者養成カリキュラムの開発研究および授業研究として、平成30年度も前年度までに引き続き、平成25年度の幼児教育研究所設置から継続して取り組んでいるテーマに沿って、学生自身の実践活動を学習の柱とした保育・教育実習や保育の内容や指導に関わる科目について、その実効性を検証し、学生自身の自己成長感を保証する養成カリキュラムの開発を検討した。</p> <p>平成29年度は、平成31年度からの幼稚園教諭養成課程の改訂に対応した新たなカリキュラム編成を行ったので、そのカリキュラム検討の基礎的資料として、現行のカリキュラムにおける授業の工夫や学科独自の科目の設定の主旨とその展開について、科目担当者が年報にて報告した。平成30年度も、平成31年度から運用される新しい保育士養成課程が出され、それに対応した保育士養成カリキュラムを作成する作業を行うことになった。更に、令和2年度(2020年度)からの大学の改組に伴い、学科専門科目のカリキュラムの作成およびそれに連動しての幼稚園教諭養成課程の新たな申請も行うこととなったため、学科が独自性をもって設置している保育者養成の土台をなす科目について、担当教員が取り組みのねらい及び内容、教授方法についてまとめた論文を執筆し、年報として発行した。年報は、実習園や近隣の養成校にも送付し、幼児教育学科の養成教育についての発信に努めた。具体的には、地域の保育施設と協働した保育者養成の基礎科目である1年次「児童学演習」、平成31年からの新たな教職課程において必修科目に位置づけられ「特別支援教育」に関する現時点で2年次3年次に開講している「障害児保育」、今回の養成課程の改訂により充実化が図られた「領域に関わる基礎的事項」と「保育内容の指導法」に位置づけられる科目、4年次後期開講の保育者養成の総まとめとなる「教職実践演習」に関して、14論文を掲載した。また、保育内容の探究であるプロジェクト研究報告も1報掲載した。</p> <p>平成31年度からの新たな保育士養成課程における実習のねらいと内容に対応するため、平成30年6月に全国保育士養成協議会によって出版された「保育実習指導のミニマムスタンダード」の編集に研究所員が編集委員として参画し、幼児教育学科の実習指導についても資料として活用して執筆した。それを本学科の実習指導のミニマムスタンダードとしても位置づけることを試み、学習会開催を企画したが、年度内の開催はできなかった。</p>	

2. 研究の成果・概要および公表実績・予定（年月日、開催場所、方法等）

1. 授業研究を特集した「幼児教育研究所年報第4号」の刊行

「平成30年度幼児教育研究所年報第4号」「Early Childhood Education Research Center Report 2018」。平成31年2月28日発行。

有志教員が各自の担当する科目について、保育の質の向上を目指す養成教育の教授内容・学習方法の工夫とその考察を年報にまとめた。取り上げた科目は、前欄に示した。

令和2年度からの改組に伴い、平成31年度からの改訂に対応して作成した教職課程と保育士養成課程カリキュラムを再度見直してカリキュラムを構築したので、学科内で何度も討議を重ねた。その討議内容も反映された論文が上梓された。また、オムニバス・共同開講科目（「児童学演習」「表現総論」「教職実践演習」）については、論文作成を通じて、担当者間の相互理解が促された。

2. 保育者養成に関わる協議会、研究会、学会への参加

平成31年度から教職課程の改定、保育士養成課程の改定の改訂のねらいやポイント、新設科目の授業のねらい等について、文部科学省、厚生労働省の担当官からの説明を受けたり、他の養成校教員と意見交換を行うことを目的として、保育教諭養成課程研究会総会、全国保育士養成協議会全国セミナー、保育者養成教育学会に参加した。

3. 「保育実習指導のミニмумスタンダード」編集への参画

保育士養成における保育実習と保育実習指導の内容及び方法、到達点を保育士養成校間で、そして実習受け入れ施設の保育士とも共有することを目指して、ミニмумスタンダードを作成した。平成30年6月、中央法規出版から刊行された。本学科の実習指導も例として紹介した。年度内には学習会を開催することができなかったが、今後は、このミニмумスタンダードを用いて、学科の教員間の学習や実習指導の向上に活用していきたい。

本報告書作成担当者 所属・氏名

連絡先内線番号

幼児教育学科 上垣内伸子

342